

## 中野町

九会の中心にある町で中世、赤松一族の金鐘(かなつるべ)城主、中村氏が居を構えていたので中村と呼ばれていましたが江戸時代の元禄郷帳では中野村となっています。九会村発足時、中心として村役場がおかれしました。

現在も小学校、幼稚園、郵便局、駐在所など公共施設が多くあります。三月に稲荷神社の初午、十月に秋祭りで神輿が町を練り歩くなど、歴史ある伝統行事を大切に守られています。

### 1 稲荷神社 2 清慶寺 3 中野城址

#### 1 稲荷神社 中野町

加西郡史によると、もとは繁昌町の川近くにありましたが慶安時代（17世紀中頃）に洪水にあい、現在の中野村に移ったようです。

安永2年（1773）京都伏見稲荷から正一位稲荷大明神の神璽をうけています。

明治29年、社殿を改築し、現在の立派な陣容が整いました。初午や秋祭りには神輿もでて賑やかになります。



#### 2 南帝山 清慶寺 中野町

宗祖は法然上人で浄土宗西山禅林寺派に属していて、弥陀三尊（阿弥陀如来、観音菩薩、勢至菩薩）がご本尊です。また南北朝時代（1457年）、帝の印である三種の神器の奪い合いから後醍醐天皇のひ孫の皇子を北朝方が殺したことを悔い、この皇子の首を中野の地にお祀りしているのが南帝塚です。

また鎌倉時代の仏像を彫った板碑や宝篋印塔も珍しく貴重なものです。





南帝塚 清慶寺

境内の右側にあります。静かな雰囲気の中、大切にお祀りされています。



板碑 清慶寺

石で出来た棺の蓋に仏像を彫った板碑が残っています。鎌倉時代末に作られています。

宝篋印塔（ほうきょいんとう） 清慶寺

鎌倉時代末に作られ、塔身の四方に仏が浮き彫りされている彫法は、他に例をみない珍しい手法で大変貴重なものです。

